

コニカミノルタ株式会社

2024年3月期 第3四半期 決算説明会

主な質問と回答

日 時： 2024年2月1日（木）17:00 ～ 18:00

方 式： オンライン／テレフォンカンファレンス

<ご留意事項>

「主な質問と回答」は、決算説明会に出席になれなかった方々の便宜のため、参考として掲載しています。説明会でお話したこと全てをそのまま書き起こしたのではなく、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。

また、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご了承ください。

【全社業績】

- Q. 3Q の営業利益について、会社計画との差異や減損損失の影響レベルを教えてください。**
- A. 3Q 単独は当初想定よりやや下回りましたが、減損損失を除くと営業利益は 100 億円近くとなり、想定をやや上まわりました。
- Q. FY23 の見通しについて、セグメント間の調整を行っていますが、状況を教えてください。**
- A. インダストリー事業は、プラネタリウムの減損損失の影響と、センシングのディスプレイ向け製品の回復遅れを織り込みました。ヘルスケア事業は、プレジジョンメディシンはサンプル数の増加を含めて赤字が縮小していますが、メディカルイメージングが 3Q 累計では計画より少し弱く、4Q の改善が必要と見えています。コーポレート費用には、年度末決算に向けて減損テストを行いますが、リスクを予想に織り込んでいます。
- Q. 在庫圧縮が進んでいますが進捗を教えてください。また期末の在庫水準の目標や適正な在庫水準に対する考え方について教えてください。**
- A. 在庫圧縮が進捗し、目標に近づいてきています。為替の動向にもよりますが、期末の在庫は 2100 億円台、回転月数は 3 カ月台を目指しています。輸送期間が長い製品が多いこともあり、地政学的リスクの影響で現地に貨物が遅れる可能性や経済情勢なども鑑みて、都度適正在庫を見極めています。

【来期見通し】

Q. 来期の見通しについて、考え方を教えてください。

- A. インダストリーの既存領域を含めて強化領域に注力する方針は変更ありません。オフィスは想定以上にプリント量が減少するという兆候は見えませんが、生産や販売の効率化を含めて収益の最大化を目指したいと考えています。プロフェッショナルプリントは、今年の5月に8年ぶりに展示会のDrupaが開催されることも追い風となりデジタル印刷が加速すると考えていますし、金利が低下すればお客様の投資意欲が戻り、商談が短縮化する期待もできると考えています。一方で、スエズ運河や中東情勢などのリスクもあり、これらを織り込みながら来期を検討しています。

【中期経営計画】

Q. 非重点事業と方向転換事業について、資料にはプレジジョンメディシン事業の記述がなくなっているなど変化がありますが、進捗を教えてください。

- A. 今回は、非重点事業に関しては3Qに実行した共有できる項目のみを記載しました。プレジジョンメディシンは非重点事業として継続検討しています。方向転換事業であるDW-DXと画像IoTは、地域やサービスの見極めを行い、選択肢として撤退や第三者資本活用する部分が見えてきました。

Q. 今後の方針について、3-4月で経営方針説明会を行うとのことですが、こういった内容になるか教えてください。

- A. 昨年5月には、今回の中期経営計画では最初の2年間で選択と集中をやり切るとお話ししました。光学コンポーネントの強化領域以外に関しては開示しましたが、まだ実行途上のものもあります。また、交渉相手が無く当社だけで実行できるものもあります。これらの進捗や方針をお話しさせて頂く予定です。

【インダストリー事業】

Q. センシングの事業環境の回復見通しについて教えてください。

- A. 3Qまでは光源色用計測機器の大手顧客の設備投資抑制が続いていて、4Qも状況を注視しています。本格的な回復は25年度と想定して慎重に見ています。

Q. 機能材料の売上減少の背景と4Q見通しについて教えてください。

- A. TV向けは在庫調整や年末商戦の盛り上がり不足、IT向けは需要が未だ戻らないのが売上減少の主要因です。4Qに向けては明るい兆しも見えています。24年度上期にはスポーツイベントの追い風などを期待しています。

Q. ディスプレイ用途の新フィルムを紹介していますが、特徴や事業規模について教えてください。

- A. 画質向上に寄与し、光学特性や透明性などが評価されていると思います。コーティングなどの組み合わせにより顧客に対して価値を提供していきます。現時点で事業規模などをお話するのは難しいのですが、中小型の次世代ディスプレイ領域での拡大を期待しています。

Q. プラネタリウム事業の今後の位置づけについて教えてください。

- A. 中期計画の中では、方向転換事業として位置付けています。コロナ前に国内直営館を拡大してきましたが、今回は主にこの固定費部分で減損損失を計上しました。今後は、一部で規模の縮小は必要と考えています。その上で事業としては、継続していきます。

以上